

陳情第 10号

令和 2年 10月 26日

長崎市議会 議長
井上 重久 様

陳 情 書

一般国道324号「(仮称)茂木バイパス」の早期事業着手

及び

県道野母崎宿線(千々～飯香浦)の整備に関連する

地籍調査の促進

長崎市茂木町 165-3
東長崎商工会茂木支所内
「(仮称)茂木バイパス」建設推進期成会
会長 森 茂八郎 (森)



茂木地域は、市中心部に近いにもかかわらず、幹線道路について整備が遅れ、災害の危険性も大きいことから、人口の減少、産業の停滞など、地域の衰退が急速に進んでいます。

平成28年に策定した「茂木校区まちづくり計画書」においても、幹線道路の整備は、取り組むべき主要事業として提案されています。

今後の地域の振興発展、安全安心のため、下記について、特段のご高配をお願いします。

1、一般国道324号について

「ながさき出島道路」、「高速道路」、と直結する、長崎インター部から茂木港までの「(仮称)茂木バイパス」について、
長崎県事業としての早期着手

2、県道 野母崎宿線(千々～飯香浦)について

北浦～飯香浦間の早期完成 及び 千々地区・大崎～宮摺間の整備に必要な、市による「地籍調査事業」の促進

1. 一般国道324号について

茂木地区から市中心部への幹線道路は、田上 IC までは、一般国道 324 号だけで、ほかにはありません。

この区間は、急カーブが多く、幅員も 2 車線には十分でないため、大型車どうしがすれ違うには、互いに徐行するか、一方が停車している箇所が多く存在します。

また、地質が悪いため、災害の危険性も高いと考えています。

現在、滑川～河平バス停間の一部で拡幅事業が実施されており、一定の効果は期待されます。

しかし、現道沿いに全体区間を改築しても、地質が悪だけでなく、地形も急峻であることから、抜本的な改良は難しいと考えられます。

また、幹線道路は、一本のままで、災害等の危険性は依然として残ります。

一方、長崎 IC 部～茂木港間の「(仮称)茂木バイパス」が整備されれば、幹線道路が二本となると共に、通過する区域は地質が良く災害の危険性も小さいことから、利便性と安全安心が飛躍的に向上します。

また、県道野母崎宿線(茂木～綱場)と一体となって、一般国道 34 号等を補完する、幹線道路ネットワークとしての機能することが期待されます。

さらに、茂木港と富岡港(熊本県苓北町)には、定期航路があることから、

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の観光等について、

県境をこえた、天草地域との連携の強化につながると考えます。

2. 県道 野母崎宿線(千々～飯香浦)について

県道 野母崎宿線は、市の橘湾沿いの幹線道路として、長年に亘り、交通不能区間、災害関連区間、通学路などについて、整備が続けられてきています。

このうち、千々～飯香浦間については、茂木地域の海沿いの集落をつなぐ唯一の道路でもあり、代替はありません。

平成 26 年に片峰橋、平成 29 年には立石トンネルが完成するなど整備が鋭意進められていますが、まだ、災害危険カ所を含む多くの未整備区間(千々地区、大崎～宮摺、北浦～飯香浦など)が残っています。

この区間では、用地買収のためには、市による地籍調査が必要な地区が多いことが、大きな課題となっています。

このことから、地籍調査の促進について、特段のご高配をお願いするものです。

なお県には、全体の調査期間の短縮と計画的な調査を行うため、調査区域の縮小ができるルートによる、計画の早期策定について十分な配慮をお願いしていきます。